

ここが聞きたい

Q & A

黒潮町少年補導育成センター
設置条例の一部を改正する条例

Q 補導センター事務所を佐賀地区に統合する理由と大方事務所廃止への対応は。

A 職員体制を4名から3名にして一カ所に統合することと佐賀地区が教育委員会に近いため。大方事務所はいつでも使用できる状態にしておく。

地方債補正

Q 超大型予算の中で起債借入れがどんどん増える傾向にあるが、財政規模が縮小したときの状況は把握できているか。

A 財政シミュレーションを基に運営しているが、国の経済状況によっては、事業の平準化をしながら実質公債比率を調整した運営を考えている。

平成23年度
一般会計予算歳出

Q 企画費で起業者支援雇用対策施設撤去工事233万円が組まれている。この施設は町がわざわざ投資して作ったものだが、撤去する理由は。

A 平成17年にテレワーク事業として、大方高校に7プロットの部屋を整備し、当時100%利用の時もあったが光ケ

ーブルの普及等によって利用者がなくなったため。

Q 企画費の中にある1500万円の貸付先は。

A 地域公共交通活性化協議会に600万円。農村漁村地域活力発掘支援事業、北部地域関係に100万円。産業振興創造支援事業に550万円。砂浜美術館関係に190万円。を考えている。

Q 諸費の中で携帯電話等エリア整備事業関係が約6600万円計上されているが、これで携帯電話の不感地域がすべて解消されるのか。

A 22年度に奥湊川地区の整備を終了し、23年度に熊野浦と大方橋川を整備する計画だが、不感地域は他に米原、川ノ内、伴太郎、中分川、須賀留があり、今後の財政状況を見ながら整備したい。

Q 障がい者自立支援費として今回初めて身体障がい者旅客

列車グリーン車両利用扶助10万円がつけられたが、本来はJR、くろしお鉄道など施設者がこうした交通弱者を守る体制施策に取り組むべきであり、黒潮町として鉄道会社に強く働きかけるべきでは。

A JR、くろしお鉄道の方には、車両改造を含め車いすでの利用が容易にできるなんらかの手だてを講じてもらえるよう働きかけたい。



広がった佐賀図書室



くろしお鉄道の列車